

五代目望月朴清龍名

朴のこゑ

ほろり

か





平成二十三年三月二十八日(月)

一部 午前十時四十五分開演
二部 午後四時 開演

国立劇場小劇場



朴清襲名を祝して

松竹株式会社

代表取締役会長 大谷信義

浅春の候、皆様におかれましては益々ご清祥のことと、お慶び申し上げます。

昨年三月、囃子方の望月長左久さんが、望月流にとって由緒ある名跡である朴清を五代目として襲名されました。そしてこの度、五代目朴清襲名を披露する演奏会を催されることは喜ばしく、心よりお祝い申し上げます。

望月流は、十八世紀後半の安永年間にその歴史を遡ることの出来る由緒ある流派です。新朴清さんの御父君である十世太左衛門さんの代からは、菊五郎劇団音楽部に所属され、当代の太左衛門さん、朴清さんご兄弟ともに、出囃子、黒御簾でご活躍です。

本日の会には、朴清さんが鳴物の指導をしていらっしゃる中村鷹之資さんを始め、朴清さんに所縁のある方々がご出演されて華を添えられるほか、一月に逝去された中村富十郎さん、そして先代望月朴清さんを偲んで『二人枕久』を演奏されますことは、誠に意義深いことと存じます。

最後になりましたが、朴清さんの益々のご活躍と、望月流の流儀の発展をお祈り申し上げます、私のお祝いの言葉に代えさせていただきます。



ご挨拶

七代目 尾上 菊五郎

春の兆しを感じるこの頃、皆様には益々ご健勝の事とお慶び申し上げます。

この度、五代目望月朴清襲名の「朴の会」が華々しく盛大に催されます事は大変喜ばしく、心よりお祝い申し上げます。

望月太左衛門さんのご家系とは、古くからのお付き合いで、三世朴清さんは、五代目菊五郎の芝居にも出演され、更に六代目菊五郎の舞台には欠くことの出来ないお方でした。四世朴清さんは、私の舞台では常に立鼓を勤めて頂き、お人柄もとても楽しい方で、印象深く残っておいでの方も多いのではないかと存じます。

そして、現代の五代目朴清さんも、私の芝居には出囃子、陰囃子に関わらず必ず携わって頂き、又、復活狂言の際の音作りも担当して頂いております。

この様に、代々菊五郎劇団にはなくてはならないお名前が「望月朴清」でございます。

五代目朴清さんには、今後も益々精進され、流儀の発展は勿論の事、歌舞伎界・邦楽界にも大きな足跡を残されますようお願い申し上げます。

ご来場の皆様には、なお一層のご指導、ご後援を賜りますようお願い申し上げます。



い 挨拶

宗家家元十二代目 望 月 太左衛門

春色のなごやかな季節、時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。

さて昨年三月に七代目望月長左久が大名跡である望月朴清を五代目として襲名し、本日襲名演奏会を開催いたす運びと相成りました。朴清の名跡は望月流にとりましても大変大きな名跡で、五代目の曾祖父のあたる三代目朴清は大正から昭和初期にかけて歌舞伎の舞台や邦楽界で活躍し、数多くの門弟を育て今日の望月流の基礎を築き上げました。

五代目朴清も長年歌舞伎の舞台で活躍し、父十代目太左衛門と数々の出囃子を勤め、十代目の立鼓で私が脇鼓、朴清が大鼓や太鼓を勤め、その技術を磨いてまいりました。

又近年では新作の歌舞伎などの作調も数多く手がけ、今や歌舞伎の黒御簾音楽にはなくてはならない演奏家の一人になっております。

朴清襲名後は歌舞伎以外の舞台も積極的に挑戦しており、本日御出演いただきます鶴賀若狭椿氏や藤間仁章氏と「鼓舞系の会」を結成しその腕前をいかんなく発揮し活躍の場を広げております。

この度朴清という大名跡を襲名いたしましたことは本人はもとより、流儀にとりまして大変喜ばしいことでございます。

皆様様にはおかれましては今後とも、より一層の御支援御鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。



ご挨拶

五代目 望月 朴 清

陽春の候、皆様には益々ご健勝にお過ごししの御事と、心より御慶び申し上げます。

昨年春、望月流宗家家元、諸先輩方の深いご理解の許、十六年余り名乗っておりました望月長久の名を改め、五代目望月朴清を襲名させて頂きました。

この度、襲名披露「朴の会」を開催させて頂く運びとなりました事は、これも偏に皆様様の温かいご余光に他ならない事と厚く御礼申し上げます。

先々代（三代目）は私の曾祖父にあたり、長唄協会創立の一員として歌舞伎界及び邦楽界にも多大な功績を残しました。

また、先代（四代目）は、人間国宝にまでなられた方で、父（十代目太左衛門）亡きあと、二十年にわたり歌舞伎の舞台を一緒に勤めさせて頂きました。

この大名跡の重責を担いつつ、この後は研鑽を重ね、尚一層芸道精進いたして参る所存でございます。

今回の演奏会にあたり、御挨拶を賜りました松竹株式会社会長大谷信義様、尾上菊五郎様を始め、特別出演、賛助出演をいただきました皆様方、並びに望月流一門の皆様様に心より感謝申し上げます。

本日は、お忙しい中ご来場賜りまして誠にありがとうございます。今後とも変わらぬ御支援、御鞭撻を賜ります様、お願い申し上げます。

番

一部

午前十時四十五分開演

一、 壽 ご祝儀 三番 叟
 一、 初 春 の 調 べ
 一、 い き お
 一、 五 原 伍
 一、 吉 原
 一、 響 き
 一、 供 の
 一、 岸 の
 一、 楠 の
 一、 船 弁
 一、 狂 獅 山
 一、 四 季
 一、 竹 生 の
 一、 賤 機 生 の
 一、 今 様 望
 一、 廓 丹
 一、 勝三郎 人連 腕
 久子 前月 帶島 姥子 慶公 柳奴 型雀 郎い べ

組

二部

午後四時開演

一、 新内子宝三番 叟
 一、 風 流 船 揃
 一、 末 広 狩
 一、 英 執 着 獅 子
 一、 元 祿 花 見 踊
杵屋正邦作曲
 一、 狸 か し 々
 一、 ま か し 々
 一、 勸 進 帳
 一、 松 の 翁
 一、 驚 の 娘
 一、 紀 州 道 成 寺
 一、 常 磐 の 庭
 一、 供 磐 の 庭
 一、 鏡 獅 子
 一、 新曲 さくらすさ 子

番組
(一部 午前十時四十五分開演)

雛子(舞台面)

ご祝儀
一、寿三番叟

笛	鳳	聲	晴	之
手先	望	月	秀	幸
頭取	望	月	左	之助
胴脇	望	月	太	意三郎
大鼓	望	月	太	意之助

一、初春の調

望月太左衛門指導

杵	柏	杵	松	杵	杵	芳	東
屋	屋	永	三味線	屋	屋	村	音
宗	要	彌	忠	喜	喜	辰	味
四	二	太	一	三	太	三	見
郎	郎	郎	郎	助	郎	郎	純

太鼓	太鼓	太鼓	大鼓	大鼓	小鼓	小鼓	小鼓	小鼓	笛
伊	菊	宮	安	安	檀	小	本	伊	本

東 島 澤 倍 倍 上 泉 山 東 藤

真 宝 大 大 真 華 桃 あ

子(小四) 鈴(小四) 美(小三) 陽(小四) 貴(小五) 菜(小四) 代(小五) 愛(小五) 子(中二) み

囃子(舞台面)

鈴	鈴	太鼓							
山	菊	師	佐々	駒	石	三	閑	山	柳
中	島	田	木	場	川	崎	田	中	岡

し 桐 翔 大 惠 樹 真 敬 龍 は

り(年長) 吾(年長) 実(小三) 直(小三) 輝(小三) 介(小二) 歌(小二) 実(小二) 太(小三) 太(小五) な(小五)

唄

三味線

囃子(舞台面)

一、いきおい

望月朴清指導
望月太八笛指導

杵	芳	東
屋	村	音
喜	辰	味見純
三	三	郎
助	郎	松
杵	松	永
屋	永	忠一郎
栄	和	三郎
美	寿	
郎	三	

太鼓	大鼓	小鼓	小鼓	小鼓	笛
望	望	鈴	望	望	望
月	月	木	月	月	月
左	左	敏	朴	秀	洋
太	左	彦	清	幸	子
寿	吉				事
郎					太
					八
					笛

一、五郎

望月太左衛門指導
望月太左君衛指導
望月太左勝指導

杵	芳	杵
屋	村	屋
喜	金	君
太	四	三
郎	郎	郎
(上)	杵	杵
柏	屋	屋
要	彌	五
二	太	三
郎	郎	助

太鼓	太鼓	大鼓	小鼓	小鼓	小鼓	小鼓	小鼓	小鼓	笛
中	五	望	望	望	望	望	望	望	鳳
村	十	月	月	月	月	月	月	月	聲
佐	嵐	左	太	太	高	小	中	黑	晴
知	子	太	左	左	瀬	柳	川	須	之
子	子	左	衛	衛	順	博	み	玉	
		左	門	門	子	美	よ	衣	
		左	指	指	事		し		
		左	導	導			事		
		勝							
		指							
		導							

一、吉原雀

望月太左衛門 監修・指導
望月太左衛門 指導

松	杵	杵	杵	松	杵	杵	杵
島	屋	屋	屋	島	屋	屋	屋
庄	勝	叟	六	庄	宇	勝	佐
十	錦		治	雅	女	寿	周
雅	な	司	雄	也	紫	穂	幸

唄

三味線

小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小					
鼓	鼓	鼓	鼓	鼓	鼓	鼓	鼓	鼓	鼓	鼓	鼓	鼓	鼓	鼓	鼓	鼓	鼓	鼓	鼓	鼓	鼓					
安	根	根	石	村	蓮	丸	水	赤	阿	池	白	杉	武	戸	長	岡	山	木	吉	江	川	坂	澤	柳	伊	中
倍	本	本	毛	田	池	山	谷	須	部	田	瀬	村	本	田	川	部	崎	下	井	本	村	本	田	本	藤	屋
真	藻	真	洋	博	幸	サ	順	律	け	千	ゆ	寿	里	力	好	康	治	由	悦	真	尚	通	紗	和	恵	桂
結	音	魚	子	子	代	シ	子	子	子	子	り	子	美	夫	子	代	子	子	子	子	希	子	代	美	子	子

大	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小
鼓	鼓	鼓	鼓	鼓	鼓	鼓	鼓	鼓	鼓	鼓	鼓	鼓	鼓	鼓	鼓	鼓	鼓	鼓	鼓	鼓	鼓	鼓	鼓	鼓	鼓	鼓	鼓
望	望	望	望	望	望	望	望	望	望	望	望	望	望	望	望	望	程	河	野	菅	坂	石	山	千	齋	望	
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	田	澄	毛	森	塚	井	葉	藤	月		
太	太	太	太	淨	太	如	雪	太	太	太	太	太	太	太	太	太	太	太	太	弘	和	律	富	澤	愛	由	太
左	左	左	左	左	左	左	左	左	左	左	左	左	左	左	左	左	左	左	左	左	左	左	左	左	左	左	左
理	如	博	左	衛	彰	康	衛	江	穂	福	晶	乃	則	彦	出	妙	喜	鈴	知	子	美	宏	子	代	子	恵	子

箱根湯本連中

笛 幸 佳

小鼓れ い 菜

小鼓真 昼

小鼓あ つ み

打物 望月 左之助

太鼓 な な 音

太鼓 茶 々

一、響き 五型

望月左之助作曲

大大鼓 望月^{季事} 左華栄

望月左之助指導
鳳聲晴之笛指導

打物 琴 音

低音電気式四弦

さ と

西洋式金属製縦笛

望月^{ひさ芽事} 左之衛

西洋式金属製縦笛

美 都 子

一、 供

望月太以
指導 奴

杵 杵 杵 杵
屋 屋 屋 屋
喜 君 直 喜
太 三 吉 三
郎 郎 吉 郎
杵 杵 杵 杵
屋 屋 屋 屋
崇 彌 彌 六
美 太 四 三
郎 郎 郎 郎

唄

三味線

囃子(舞台面)

太鼓	太鼓	太鼓	大鼓	小鼓	小鼓	小鼓	小鼓	小鼓	笛
こ	望	望	望	望	望	望	ひ	望	中
主計町	主計町	竹澤	主計町	主計町	国重	主計町	主計町	主計町	川
と	月	月	月	月	月	月	月	月	善
	か子弥事	勝志事	桃太郎事	きみ代事	晴見事	太満	太満	きと葉事	雄
乃	太満	太満	太満	太満	太満	太満	太満	太満	智
	忠	志	桃	紀	晴	衛	な	智	

一、岸の柳

望月太喜輔 笛指導

柏	松	杵	芳	芳	杵
	永	屋	村	村	屋
要	忠	六	辰	金	君
二	一	三	三	四	三
郎	郎	郎	郎	郎	郎

唄

		太鼓	大鼓	小鼓	小鼓
		望	望	望	望
望	望	月	月	月	月
秀	左	喜	左	太	太
幸	太	美	喜	意	意
	寿		三	三	三
	郎		郎	郎	郎

蔭囃子

囃子(舞台面)

笛	笛	笛	笛	笛	笛	笛	笛
岡	林	田	森	望	大	鈴	嶋
部		中	下	月	森	木	田
ち	由	貞	登	富	貴	順	涼
ず	美	真	夫	喜	代	子	子
	子	真	夫	子	子	子	子

一、楠

望月太以
指導 公

杵 芳 杵 杵
屋 村 屋 屋
喜 金 君 喜
太 四 三 三
郎 郎 郎 郎
松 松 杵 杵
永 永 屋 屋
和 忠 彌 六
寿 一 四 三
三 郎 郎 郎

唄

三味線

大鼓	大鼓	小鼓	小鼓	小鼓	小鼓	小鼓	笛
望	望	望	望	望	望	望	中
東	主計町	東	東	涼	因重晴見事	月	川
小	さし葉	亞希事	ゆみ事	太	太	太	善
梅事	太	太	太	滿	滿	滿	雄
瑞	智	希	由美	滿	晴	香	

囃子(舞台面)

一、船 弁 慶

望月太左衛 監修 指導

山 望 杵 杵 和
 田 月 屋 屋 歌
 惠 太 勝 六 富
 理 左 寿 百 野
 (上) 杵 杵 杵 杵
 屋 家 屋 屋 屋
 彌 弥 叟 宇 六
 四 江 司 女 治
 郎 宏 紫 雄

大鼓 望細沼月ヒデ子 太左日出
 大鼓 望月 太左乃
 小鼓 望外川月則男 太左則
 小鼓 望安藝月意彦 太左彦
 小鼓 望月 太左如
 小鼓 望月 左武郎
 笛 福原徹彦

一、狂 獅 子

望月太以 指導

芳 杵 杵 杵
 村 屋 屋 屋
 辰 君 直 喜
 三 三 吉 三
 郎 郎 郎 郎
 松 松 杵 杵
 永 永 屋 屋
 和 忠 彌 六
 寿 一 四 三
 郎 郎 郎 郎

大鼓 望主計町月かず弥 太満惠
 大鼓 望主計町月きみ代 太満紀
 小鼓 望東月真砂美 太満左
 小鼓 望月 太左衛
 小鼓 望藤蔭月喜代枝 太満史
 小鼓 望主計町月桃太郎 太満桃
 笛 中川善雄

一、四季の山姥

望月美沙輔 笛指導

杵 芳 東 杵
 屋 村 音 屋
 喜 辰 味 直
 三 三 見 吉
 助 郎 純 吉
 柏 杵 杵 杵
 屋 屋 屋
 要 彌 彌 五
 二 太 四 三
 郎 郎 郎 助

太鼓 大鼓 小鼓 小鼓 笛
 望 望 望 望 千
 月 月 月 月 草
 左 太 太 左 嬰
 之 意 左 喜 蓼

一、竹生島

望月太左衛門 指導
 八 笛指導

杵 杵 芳 杵
 屋 屋 村 屋
 喜 喜 金 直
 三 太 四 吉
 助 郎 郎 吉
 柏 杵 松 杵
 屋 永 屋
 要 崇 忠 六
 二 美 一 三
 郎 郎 郎 郎

太鼓 大鼓 小鼓 小鼓 大鼓 小鼓 小鼓 笛
 千 乃 千 千 望 望 望 千
 草 草 草 草 草 草 草 草
 乃 江 鶴 万 柳 香 崇 は 文

唄

三味線

囃子(舞台面)

神楽坂

一、賤機帶

望月太以指導

東杵杵杵
音屋屋屋
味君直喜
見三三三
純郎吉郎
(上)杵杵杵
松杵杵杵
永屋屋屋
和彌五六
壽太三三
三郎助郎

太鼓望望望望望
月月月月月
太太太太太
滿滿滿滿滿
衛衛衛衛衛
以以以以以
京京京京京
清清清清清
善善善善善
雄雄雄雄雄

一、今様望月

望月太左衛門指導

芳芳杵
村村屋
辰金直
三三四吉
郎郎
杵松杵
屋永屋
崇忠六
美一郎三
郎郎郎

太鼓望望望望望
月月月月月
太太太太太
意意意意意
之之之之之
助助助助助
明明明明
浩浩浩浩
美美美美
之之之之

一、廓 丹 前

望月太左衛 指導

杵	芳	東	杵
屋	村	音	屋
喜	辰	味	直
太	三	見	吉
郎	郎	純	杵
柏	松	杵	杵
	永	屋	屋
要	和	彌	六
二	壽	四	三
郎	三	郎	郎
太	小	小	小
鼓	鼓	鼓	鼓
望	望	望	望
月	月	月	月
雪	朴	太	左
左	清	左	之
衛		衛	助
		門	
		博	
		已	

陰 敬子

望月

望月

太意之助

太意三郎

一、勝三郎 連 獅子

望月太左衛 指導

杵	芳	杵
屋	村	屋
喜	金	君
三	四	三
助	郎	郎
柏	松	杵
	永	屋
要	忠	彌
二	一	四
郎	郎	郎
太	小	小
鼓	鼓	鼓
望	望	望
月	月	月
太	左	秀
左	太	徹
博	左	彦
已	乃	
	子	
	子	
	衛	

一、二人椀久

杵	東	杵	杵
屋	音	屋	屋
喜	味	君	直
三	見	三	吉
助	純	郎	
松	杵	杵	杵
永	屋	屋	屋
和	彌	彌	六
寿	太	四	三
三	郎	郎	郎
郎			

大	小	小	小	笛
鼓	鼓	鼓	鼓	福
望	堅	望	望	原
月	田	月	月	徹
朴	喜	太	左	彦
清	三	喜	太	
	久	雄	郎	

蔭囃子

望月

太意三郎

平成九年十二月バリ歌舞伎公演で、故中村富十郎丈、先代、故望月朴清師と
 ご一緒に舞台を勤めさせていただいた、思い出の曲です。
 お二人を偲んで、演奏させていただきます。

番組 (二部 午後四時開演)

浄瑠璃

三味線

囃子 (舞台西)

一、新内子宝三番叟

望月朴清 指導

鶴賀 伊勢哲太夫
 鶴賀 梅寿太夫
 鶴賀 若狭掾
 鶴賀 新内
 鶴賀 伊勢一郎
 鶴賀 勝志壽
 鶴賀 伊勢喜

笛 望月太八
 小鼓 望月左喜蔵
 小鼓 望月左太郎
 小鼓 望月左武郎
 大鼓 望月左吉
 大鼓 鶴賀伊勢次郎
 大鼓 望月朴清

陰囃子

望月正浩
 望月左太郎

一、風流船揃

望月太左衛門指導

杵 芳 杵
屋 村 屋
喜 金 直
三 四 吉
助 郎 吉
杵 松 杵
屋 永 屋
崇 忠 六
美 一 三
郎 郎 郎

大鼓 望月 小鼓 望月 小鼓 望月 小鼓 望月 笛 望月
望月 望月 藤間 奈津 望月 望月 望月 望月
太喜輔

唄

三味線

囃子(舞台面)

一、末広狩

望月朴清指導

杵 芳 芳
屋 村 村
喜 辰 金
三 三 四
助 郎 郎
杵 杵 杵
屋 屋 屋
崇 彌 彌
美 太 四
郎 郎 郎

大鼓 望月 小鼓 望月 小鼓 望月 小鼓 望月 笛 望月
望月 望月 石野 裕子 望月 望月 望月 望月
太意之助 左吉 太喜輔

一、英執着獅子

望月喜美指導
望月鏡子 笛指導

杵 杵 芳 東 杵
屋 屋 村 音 屋
喜 喜 辰 味 君
三 太 三 見 三
助 郎 郎 純 郎
柏 松 杵 杵 杵
永 屋 屋 屋
要 和 彌 彌 五
二 壽 太 四 三
郎 三 郎 郎 助

太鼓	大鼓	小鼓	小鼓	小鼓	笛	笛	笛	笛	笛	笛	笛	笛	琴
望	望	望	望	望	松	竹	荒	雜	藤	大	戶	望	望
月	月	月	月	月	橋	馬	木	賀	本	木	田	月	月
左喜三郎	喜美	鏡篠	太意三郎	秀幸	三千代	千恵子	久子	厚子	淑子	茂信	芙美子	鏡子	鏡花

一、元祿花見踊

望月太左衛 監修・指導

杵	松	杵	杵	櫻	和
屋	島	屋	屋	川	歌
佐	庄	六	勝	び	富
周	雅	百	壽	ん	野
幸	也	合	穂	助	
杵	杵	杵	菊	松	杵
家	屋	屋	池	島	屋
弥	宇	勝	紋	庄	叟
江	女	錦	子	十	司
宏	紫	吞	子	雅	
太鼓	大鼓	小鼓	小鼓	小鼓	小鼓
望	望	望	石	堀	山
月	月	月	毛	口	田
太左	太左	太左	洋	忠	惠
寬	衛	福	子	雄	理

蔭囃子
望月正浩
望月左太郎
望月秀幸

一、

狸

々

杵屋正邦作曲
十世望月太左衛門作調
(独奏部)

望月太左衛門指導
望月太八笛指導

I部

杵屋五三助
松永和寿三郎

II部

杵屋彌太郎
杵屋栄美郎

笛

中村香織
月太八香

小鼓

望月正浩

小鼓

中川みよし
望月太左衛門

小鼓

高瀬順子
望月太左勝順

小鼓

望月太左衛門

小鼓

熊澤しげ子
望月太左樂

大鼓

望月太意之助

大鼓

芳町久松
望月太左兆

太鼓

安倍大貴

一、まかしよ

望月大左衛門 指導

杵 芳 杵
屋 村 屋
喜 金 直
太 四 吉
郎 郎 杵
松 杵
屋 永 屋
崇 忠 六
美 一 三
郎 郎 郎

笛 中 川 善 雄
小 鼓 望 月 太 喜 雄
小 鼓 望 月 太 江
大 鼓 望 月 太 左 衛
太 鼓 望 月 太 左 乃
佐野友紀事

陰 離 子
望 月 左 太 郎
望 月 左 喜 三 郎

一、勸進帳

望月大左衛門 指導

杵 杵 芳 東 杵
屋 屋 村 音 屋
喜 喜 辰 味 君
三 太 三 見 三
助 郎 郎 純 郎
(上) 杵 松 杵 杵
柏 屋 永 屋 屋
要 崇 忠 彌 五
二 美 一 四 三
郎 郎 郎 郎 助

笛 鳳 聲 晴 之
小 鼓 山 下 公 子
小 鼓 野 崎 淑 子
小 鼓 望 月 左 喜 葦
小 鼓 望 月 太 左 苗
小 鼓 望 月 太 左 衛 門
小 鼓 望 月 太 左 君 鷹
小 鼓 望 月 太 左 君 衛
大 鼓 望 月 左 喜 三 郎

一、松の翁

望月太左衛 監修・指導

一、鷺娘

望月太喜輔 笛指導

松	杵	杵	杵	芳	杵	
永	屋	屋	三味線	屋	村	屋
和	彌	五	線	喜	金	直
寿	太	三		太	四	吉
三	郎	助		郎	郎	
郎						

大鼓	大鼓	小鼓	小鼓
望	望	望	望
月	月	月	月
左	左	左	左
之	喜	武	太
助	三	郎	郎

望月 左太寿郎
望月 左喜蔵
陰囃子

笛	笛	笛	笛	笛	笛	笛	笛
久	福	橋	吉	玉	本	山	中
佐	田	口	野	置	藤	田	嶋
		瑞	登	ひ	あ	恵	亜
陽	誠	紀	子	かり	ゆみ	理	希子

杵	杵	杵	杵
家	屋	屋	屋
弥	宇	叟	六
江	女	司	治
宏	紫		雄

小鼓	笛								
望	望	齋	望	望	石	望	望	望	望
月	月	藤	月	月	塚	月	月	月	月
太	太	由	太	太	漆	太	太	太	太
左	左	起	左	左	子	左	左	左	左
茂	美	子	美	美	美	美	美	美	美
	知	事	知	知	知	知	知	知	知

一、紀州道成寺

望月太左衛門指導

杵 芳 東 杵 杵
屋 村 音 屋 屋
喜 辰 味 君 直
三 三 見 三 吉
助 郎 純 郎 吉

柏 杵 松 杵 杵
屋 永 屋 屋
要 崇 和 彌 六
二 美 壽 四 三
郎 郎 三 郎 郎

太 大 小 小 小 笛
鼓 鼓 鼓 鼓 鼓 福
望 望 望 望 望 原
月 月 月 月 月 彦
如 太 太 朴 左 徹
左 左 左 左 左 吉
衛 衛 衛 衛 衛 彦
康 門 門 清 清 彦

一、常磐の庭

望月太喜輔笛指導

(上)

杵 柏 杵 杵
屋 屋 屋
彌 要 彌 六
太 二 四 三
郎 郎 郎 郎

三味線

唄

小 小 小 小 小
鼓 鼓 鼓 鼓 鼓
望 望 望 望 望
月 月 月 月 月
左 太 朴 太 正
之 意 之 意 浩
助 之 助 清 三 郎

笛 笛 笛 笛 笛 笛
望 望 望 望 望 望
月 月 月 月 月 月
太 太 太 太 太 美
喜 喜 喜 喜 喜 沙
若 音 紫 貴 喜 輔
若 音 乃 鳳 沙 輔

一、
供

望月朴清
指導

奴

芳	芳	杵
村	村	屋
辰	金	直
三	四	吉
郎	郎	
松	松	杵
永	永	屋
和	忠	六
寿	一	三
三	郎	郎

太鼓	大鼓	小鼓	小鼓	小鼓	笛
中	望	望	望	望	福
村	月	月	月	月	原
鷹	朴	左	左	左	徹
之	清	武	喜	喜	彦
資		郎	三	三	

蔭雛子

望月

望月

大意三郎
秀幸

一、鏡

望月太左衛門
獅子指導

東 芳 杵 杵

音 村 屋 屋

味 金 直 喜

見 四 三 郎

純 郎 吉 郎

柏 杵 杵 杵

屋 屋 屋

要 彌 五 五

二 太 三 三

郎 郎 助 郎

大鼓 大鼓 小鼓 小鼓 小鼓 笛

堅 望 安 望 望 中

田 月 倍 月 月 川

喜 太 真 太 左 善

三 左 真 喜 太 善

久 衛 結 雄 郎 郎 雄

望月太左衛 原作・作曲
 やしろ いのすけ 作詞
 望月 朴 清 作 調
 藤 間 仁 章 振 付
 中 川 敏 裕 箏 手 付
 元 井 美 智 子 箏 手 付

一、新曲 さくらさく

小鼓 望月 朴 清

今 杵 今
 藤 屋 藤
 政 秀 郁
 子 子 子

清 清 清
 元 元 元
 梅 香 紫
 弓 葉 葉

第一箏
 中 川 敏 裕

第二箏
 元 井 美 智 子

笛
 望 月 太 八

陰 雜 子

望月 太左衛門
 望月 太左衛

さくらの心 藤 間 賛助出演
 恵 都 子

月の帝 藤 間 賛助出演
 仁 章

さくらさく

作 望月 太左衛

ある月夜の晩、桜の種が一つ、ポトンと土の上に落ちました。種は月の光の中、命の芽を出し始めました。

小さな芽は大地の恵み、輝く太陽、降り注ぐ雨、そして大気の優しさに包まれて、どんどん大きくなってゆきました。

冬の寒さにかたく閉ざしたつぼみたちも、春の気配に誘われて少しずつ、顔をほころばせてゆきます。一つ、また一つと花を咲かせ、ある日、桜の木は今までにない満開となりました。おりしもその晩は満月でした。

久しぶりに再会した月と桜の木は顔を見合わせ、「にっぽんに生まれてよかったね。」と言いました。

美しく咲いた桜の花も、春の風に容赦なく吹かれ、皆いさぎよく散ってゆきました。知らない間に葉桜となった木は、夏の日ざしを浴びて、元気に育ってゆきました。そして秋が来て、冬がまたやってきました。ひとまわり大きくなった桜の木は、春の来るのをじっと待っているのです。

気の遠くなる位、長い時間が過ぎてゆきました。

ある秋の日、桜の木はその生まれ育った土地と別れることになりました。木の枝が虫に荒らされ、ここで立っていると他の木にも迷惑をかける事になってしまいうからです。なつかしい地の香り、暖かさ、桜の木はさびしさで心がいっばいになりました。

丸太にされた桜の木は、また何年もそのまま外で寝かされていました。

「この先自分はどうなってしまうのだろう、ただのたき木になってしまふのだろうか……」

風に吹かれ、雨に打たれながら考えていました。

そうしていくうちに、のびのびと育った桜の木は、年輪の目がまつってゆき、硬く、強い丸太になってゆきました。

もうすぐ十年になるかと思う夏に近いある日、桜の木は木工の仕事場に連れてゆかれました。そして見た事もない面白い形に削られました。お椀二つの間に筒が一本、いつか見たUFOに似ていると考えているうちに、黒い液体が体じゅうに塗られます。

その液体が肌に馴染むころ、光る金色の粉で絵を描いてくれ始めました。なんと、なつかしい桜の花の絵が身体いっばいに描かれているではありませんか。なつかしさとうれしさで思わず涙が出てきました。一度は死んでしまった自分、桜の木が新たに生まれ変わった瞬間です。桜の木は、小鼓の胴として新しく生きる道を歩み始めました。

桜の胴は、小さな女の子の手元に行きました。女の子は一所懸命、小鼓のお稽古をしました。

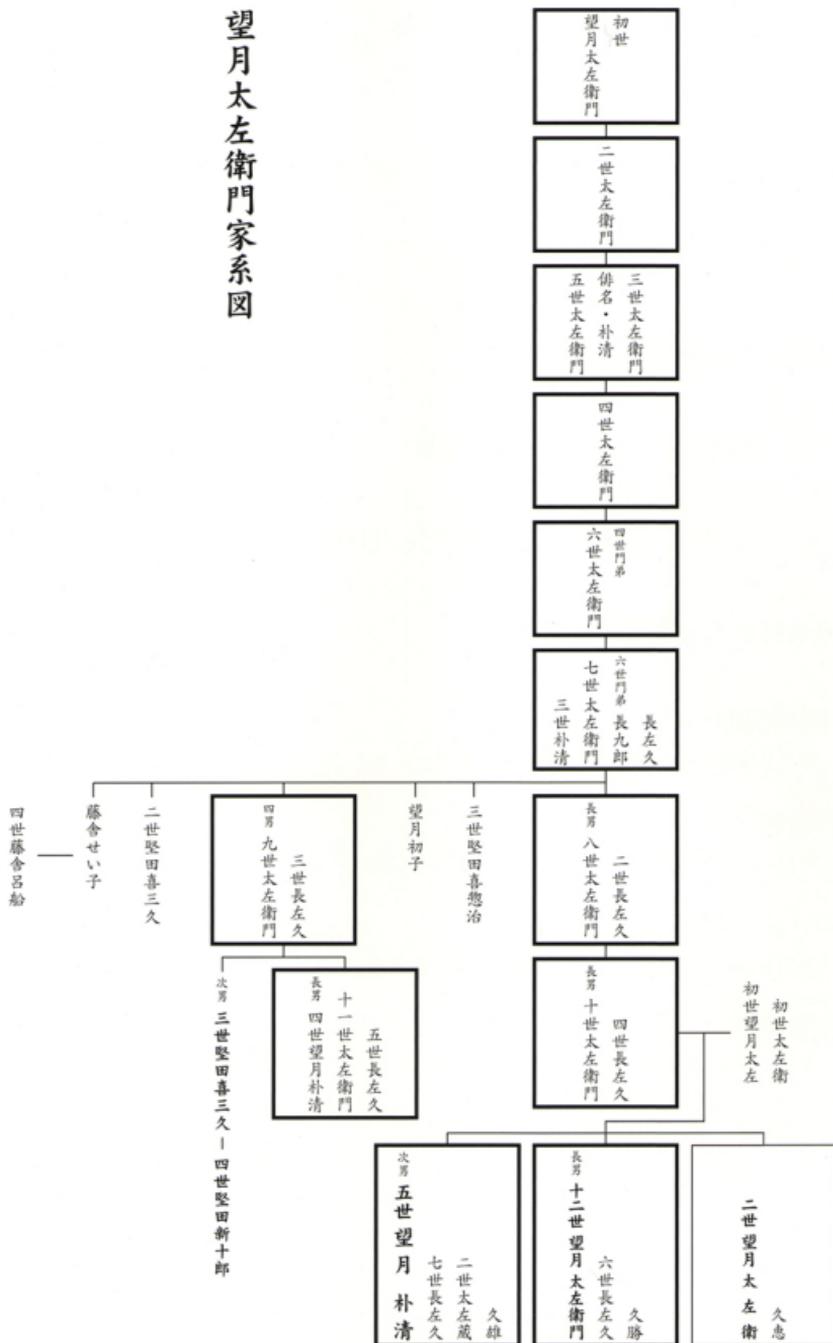
今日はいよいよ晴れの舞台上上がる日です。女の子の着物の紋も桜です。

幕の上がるのを待っている間、今は小鼓の胴となった桜の木はびっくりしました。その舞台の上にいる人達がみな、月々の名を持つているからです。桜の木が、宇宙から生命をうけたのは、月夜の晩でした。また、桜が満開となった夜、お月様と話をしたことも思い出しました。

「にっぽんに生まれてよかったね」

そう、つばやき、桜の木は。ほん、ほん、と明るい音を響かせました。

望月太左衛門家系図



特別出演

人間国宝

杵屋 喜三郎

人間国宝

杵屋 五三郎

人間国宝

鶴賀 若狹掾

人間国宝

堅田 喜三久

賛助出演

〔新曲さくらさく〕

藤間 仁 章

藤間 忠都子

長唄

唄

杵屋 直吉

○ 芳村 金四郎

東音 味見純

芳村 辰三郎

杵屋 喜太郎

○ 杵屋 喜三助

杵屋 君三郎

三味線

杵屋 六三郎

○ 杵屋 彌四郎

松永 忠一郎

松永 彌太郎

杵屋 和寿三郎

杵屋 栄美郎

○ 柏 要二郎

杵屋 五三助

船弁慶元禄花見踊

和歌山 富野

賛助出演

新内

浄瑠璃

鶴賀 梅寿大夫

鶴賀 伊勢哲太夫

三味線

鶴賀 伊勢一郎

新内 勝志壽

鶴賀 伊勢喜

〔新曲さくらさく〕

唄

今藤 郁子

杵屋 秀子

今藤 政子

三味線

清元 紫葉

清元 香葉

○ 清元 梅弓

中川 敏裕

元井 美智子

囃子

望月 太左衛門

望月 大喜雄

望月 左之助

望月 太意之助

望月 太意三郎

望月 正浩

望月 左吉

望月 左武郎

望月 左太郎

望月 左喜三郎

望月 左喜蔵

望月 左太寿郎

望月 秀幸

望月 喜美

望月 太左衛

望月 太左衛

望月 太喜輔

○ 望月 鏡子

○ 望月 太八

○ 中川 善雄

○ 鳳聲 晴之

○ 福原 徹彦

望月左之助門弟

望月 左之衛
望月 左華宗
箱根湯本 あづみ
箱根湯本 真 登
箱根湯本 琴 音
箱根湯本 幸 住
箱根湯本 茶 々
箱根湯本 れい 菜
箱根湯本 さ と
箱根湯本 な な 音
綾瀬 美都子

望月太八門弟

望月 太八香
望月 太八笛

望月太喜輔門弟

望月 太喜沙
望月 太貴鳳
望月 美沙輔
望月 太喜紫乃
望月 太喜音
望月 太喜若
望月 富喜子
望月 寄喜子
望月 登夫
森下 登夫
田中 貞真
山田 恵理
松木 行子
林 由美子
本藤 あゆみ
中嶋 亜希子
吉野 登子
橋口 瑞紀
大森 貴代子
福田 誠
玉置 ひかり
久佐 陽
神楽坂 華嬰
鈴木 順子
岡部 ち子
鳩田 涼子

望月鏡子門弟

望月 鏡花
大木 茂信
藤本 淑子
松橋 三千代
戸田 芙美子
荒木 久子
竹馬 千恵子
韓賀 厚子

望月喜美門弟

望月 鏡蓀

望月太左衛門門弟

望月 太左如
望月 太左寛
望月 太左博巳
望月 太左彰
望月 淨衛
望月 太左茂
望月 太左寛
望月 太左博巳
望月 太左如
望月 如康
望月 雷左衛
望月 太江

出演者(順不同)

望月 太左理
望月 太左穂
望月 太左晶
望月 太左乃
望月 太左則
望月 太左彦
望月 太左日出
望月 太左妙
望月 太左喜
望月 太左美鈴
望月 太左美知
尾崎 崇子
程田 弘子
河澄 和美
野毛 宏
菅 律子
坂 富美代
石塚 淳子
山野井 忠
千葉 愛子
齊藤 由起子
石毛 洋子
村田 博子
堀口 忠雄

根本 真魚
根本 藻音

安倍 真結

(朝日カルチャーセンター
池袋西武コミニシアスレディ
藝文院文化センター!
南林間カルチャーセンター)

丸山 サトシ
水谷 順子
赤須 律子
阿部 けい子
池田 千鶴子
白瀬 ゆり
杉村 寿子
武本 里美
戸田 力夫
長谷川 好子
山崎 治子
岡部 康代
木下 由美子
吉井 悦子
江本 真希
川村 尚子
坂本 通代

澤田 紗登美
柳本 和子

望月太左衛門弟

伊藤 恵美子
仲屋 桂子

長唄囃子・糸好会

杵屋 叟司
杵屋 六治雄
松島 庄十雅
松島 庄雅也
杵屋 佐周幸
杵屋 守女紫
杵屋 六百合
杵屋 勝錦女
杵屋 勝寿穂
杵家 弥江宏
菊池 紋子
櫻川 びん助

望月太左衛門門弟

望月 太左兆
(芳町・鼓腰会)

望月 太左明
(浅草・草調会)

望月 太左宗
望月 太左香

望月 乃江

浅草 乃江

浅草 千鶴

浅草 千文

浅草 千乃

浅草 あづは

浅草 すぎ柳

望月 長美之

望月太左衛門門弟

望月 太以

望月 太満

望月 太満衛

望月太以門弟

望月 太満京

望月 太満忠

望月 太満由美

望月 太満紀

望月 太満史

望月 太満左

望月 太満希

望月 太満晴

望月 太満智

望月 太満瑞

望月 太満志

望月 太満桃

東 涼香

北計町 こと乃

北計町 ひな

望月太左衛門門弟

藤間 奈津
(龜倉)

望月 太左乘
(浅月会)

黒須 玉衣

中村 佐知子

小泉 華代

安倍 大貴

安倍 大陽

宮澤 宝美
(たつみ会)

檀上 真菜

伊東 桃子

伊東 真子

伊東 鈴子

本島 愛

柳岡 龍太
(音鼓の会)

山中 敬太

重枝 はな

関田 真実

石川 惠介

駒場 大輝

佐々木 直

師田 翔美

菊島 桐吾

山中 しほり
(字月会)

望月 太左勝順

望月 太左勝衛

小柳 博美

五十嵐 瑞美子

三崎 樹歌

望月太左衛門門弟

望月 太左君衛

望月太左君衛門弟

望月 太左君鷹

望月 太左君苗

望月 太左君理

山下 公子

野崎 淑子

望月朴清門弟

石野 裕子

鈴木 敏彦

鶴賀 伊勢次郎

中村 鷹之資

スタッフ

大 道 具 歌舞伎座舞台(株)

舞台技術協力 国立劇場舞台技術部

題字・めくり 中嶋 玉華

舞台監督 清野 正嗣

アナウンス 金子 あい

ビデオ・写真 舞ビデオ

宣伝美術 サザンカンパニー

印刷 ダイコオー企画

協力 中島 基治

浅草見番附

いづみや

舞踊芸術

増田 茂久

制作事務 梅澤 良行

清水 美輝

制作 朴 の 会

主 催

五代目 望月朴清

根岸稽古場

〒一〇一〇〇〇三

東京都台東区根岸五―十一―十
電話〇三―六三二二―九七四四

荒木町稽古場

〒一六〇一〇〇〇七

東京都新宿区荒木町十一
キャッスル花井二〇二 花井桃朝方